

景気ウォッチャー調査(東海地区:2015 年 8 月)

～現状判断 DI は 2 ヶ月ぶりに低下、7 ヶ月ぶりの 50 割れ～

- 9 月 8 日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の 8 月の現状判断 DI (3 ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断：各分野計) は前月差 2.4 ポイント低下の 49.2 と 2 ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す 50 を 7 ヶ月ぶりに下回った。家計動向関連 (小売、飲食、サービス、住宅関連) DI は、8 月は前月差 1.3 ポイント低下の 49.2 と、2 ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月ぶりに下回った。企業動向関連と雇用関連からなる DI は、8 月は前月差 4.3 ポイント低下の 49.3 と、3 ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す 50 を 9 ヶ月ぶりに下回った (注 1)。

現状判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 6月	50.3 (-2.9)	51.0 (-2.3)	48.8 (-4.4)	50.4 (-3.2)	53.4 (+0.2)	52.3 (-0.4)
7月	51.6 (+1.3)	51.6 (+0.6)	50.5 (+1.7)	50.8 (+0.4)	53.6 (+0.2)	53.4 (+1.1)
8月	49.2 (-2.4)	49.3 (-2.3)	49.2 (-1.3)	48.8 (-2.0)	49.3 (-4.3)	50.4 (-3.0)

- 8 月の先行き判断 DI は、前月差 4.0 ポイント低下の 47.1 と 3 ヶ月連続で低下し、横ばいを示す 50 を 7 ヶ月ぶりに下回った。また、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断 DI は前月差 4.7 ポイント低下の 45.8 と、3 ヶ月連続で低下し、横ばいを示す 50 を 5 ヶ月ぶりに下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断 DI は前月差 2.6 ポイント低下の 49.7 と、2 ヶ月連続で低下し、横ばいを示す 50 を 16 ヶ月ぶりに下回った。

先行き判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 6月	52.7 (-2.0)	53.5 (-1.0)	51.2 (-3.6)	52.9 (-1.4)	55.7 (+1.2)	54.7 (-0.2)
7月	51.1 (-1.6)	51.9 (-1.6)	50.5 (-0.7)	51.3 (-1.6)	52.3 (-3.4)	53.1 (-1.6)
8月	47.1 (-4.0)	48.2 (-3.7)	45.8 (-4.7)	47.4 (-3.9)	49.7 (-2.6)	49.9 (-3.2)

- 現在の景気の水準自体に対する判断 DI (各分野計) は、8 月は前月差 1.4 ポイント低下の 49.2 と、2 ヶ月ぶりに低下し、中立を示す 50 を 2 ヶ月ぶりに下回った。家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断 DI は前月差 0.1 ポイント上昇の 48.2 と、2 ヶ月連続で上昇、企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断 DI は前月差 4.0 ポイント低下の 51.3 と、2 ヶ月ぶりに低下した。

現状判断DI(水準)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 6月	48.9 (-1.2)	48.6 (-2.0)	46.3 (-1.4)	47.0 (-2.8)	54.1 (-0.7)	51.7 (-0.6)
7月	50.6 (+1.7)	49.5 (+0.9)	48.1 (+1.8)	47.5 (+0.5)	55.3 (+1.2)	53.5 (+1.8)
8月	49.2 (-1.4)	48.4 (-1.1)	48.2 (+0.1)	47.0 (-0.5)	51.3 (-4.0)	51.2 (-2.3)

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 鈴木明彦 塚田裕昭 杉本宗之

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2 / 〒461-8511 名古屋市東区葵 1-19-30

TEL: 03-6733-1070 / 052-307-1106

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「景気は、中国経済に係る動向の影響等がみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、シルバーウィーク、プレミアム付商品券への期待等がみられる一方、中国経済の情勢や物価上昇への懸念等がみられる」とまとめ、4月の判断を基本的に維持している。

(7月のまとめ) 「景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、物価上昇への懸念等がみられるものの、観光需要、プレミアム付商品券への期待等がみられる」

- 東海経済については、「景気は、緩やかな回復基調が一服し、弱い動きがみられる。先行きについては、家計動向関連、企業動向・雇用関連ともに見方が一段と慎重になっている。プレミアム付商品券、インバウンド消費、伊勢志摩サミットへの期待が続いているが、中国経済の減速や株価下落への懸念が広がっている」とまとめられる。

(7月のまとめ) 「景気は、緩やかな回復基調が一服している。先行きについては、家計動向関連、企業動向・雇用関連ともに見方が慎重になっている。伊勢志摩サミット、プレミアム付商品券への期待が続いているが、夏のボーナスへの期待は一巡した」

- 景気の現状判断DI、家計動向関連、企業動向・雇用関連いずれも低下し、50を下回ってきた。特に企業動向・雇用関連のDIは大幅に低下している。東海経済は春までの持ち直し動きが一服している状況となっていたが、8月は中国経済の減速や世界的な株安がマイナス要因として加わって弱い動きがみられる。特に企業動向・雇用関連におけるマインドの悪化が顕著である。

- 景気の先行きについては、中国経済の減速や世界的な株安という懸念材料が加わり、見方が一段と慎重になっている。大型連休となる秋のレジャー需要に対する期待に加えて、プレミアム付商品券、インバウンド消費、伊勢志摩サミットへの期待が続いているが、新たな懸念材料を払拭するには力不足のようだ。

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海＝愛知、岐阜、三重、静岡

南関東＝埼玉、千葉、東京、神奈川

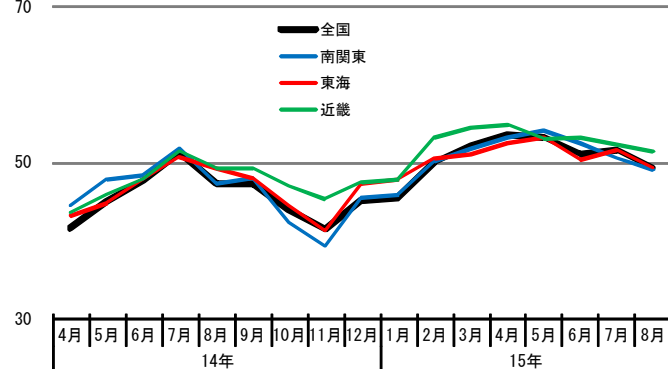
近畿＝滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

1. DIの動向

（1）景気の現状判断（3ヶ月前との比較、方向性）

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI（各分野計）は、前月差2.4ポイント低下の49.2と2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を7ヶ月ぶりに下回った。近畿に比べて低いが、南関東、全国とほぼ同水準となっている。

現状判断DI（各分野計）

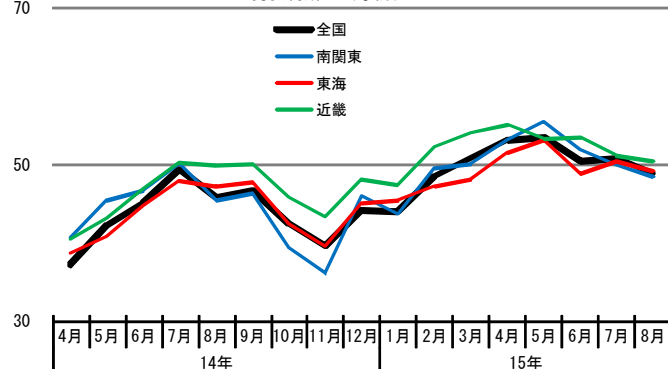


■各分野計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	41.6	44.5	43.2	43.6
	5月	45.1	47.8	44.9	45.9
	6月	47.7	48.4	47.9	47.9
	7月	51.3	51.7	50.8	51.4
	8月	47.4	47.3	49.2	49.3
	9月	47.4	48.0	48.0	49.4
	10月	44.0	42.3	44.5	47.0
	11月	41.5	39.3	41.2	45.4
	12月	45.2	45.5	47.3	47.6
15年	1月	45.6	45.8	47.8	47.8
	2月	50.1	50.2	50.6	53.3
	3月	52.2	51.8	51.0	54.6
	4月	53.6	53.2	52.5	54.9
	5月	53.3	54.2	53.2	53.1
	6月	51.0	52.6	50.3	53.3
	7月	51.6	50.5	51.6	52.4
	8月	49.3	49.1	49.2	51.4

- 家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、8月は前月差1.3ポイント低下の49.2と、2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を2ヶ月ぶりに下回った。近畿に比べてやや低いが、南関東、全国とほぼ同水準となっている。

現状判断DI（家計）

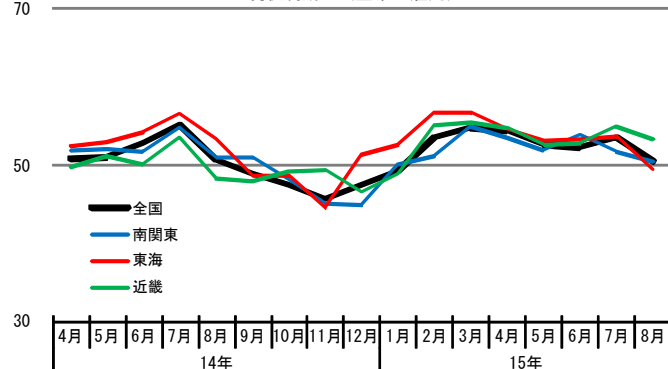


■家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	37.2	40.5	38.7	40.4
	5月	42.1	45.5	40.8	43.1
	6月	45.1	46.8	44.7	46.8
	7月	49.4	50.1	47.9	50.3
	8月	45.8	45.4	47.2	49.9
	9月	46.7	46.4	47.7	50.2
	10月	42.3	39.4	42.3	45.9
	11月	39.5	36.1	39.5	43.2
	12月	44.2	45.9	45.1	48.2
15年	1月	43.9	43.6	45.4	47.4
	2月	48.4	49.6	47.2	52.3
	3月	50.9	50.0	48.0	54.1
	4月	53.2	53.1	51.5	55.0
	5月	53.6	55.4	53.2	53.4
	6月	50.4	51.9	48.8	53.6
	7月	50.8	49.9	50.5	51.2
	8月	48.8	48.4	49.2	50.4

- 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、8月は前月差4.3ポイント低下の49.3と、3ヶ月ぶりに大幅に低下し、9ヶ月ぶりに横ばいを示す50を下回った。近畿に比べると低く、南関東、全国と比べてもやや低くなっている。

現状判断DI（企業・雇用）



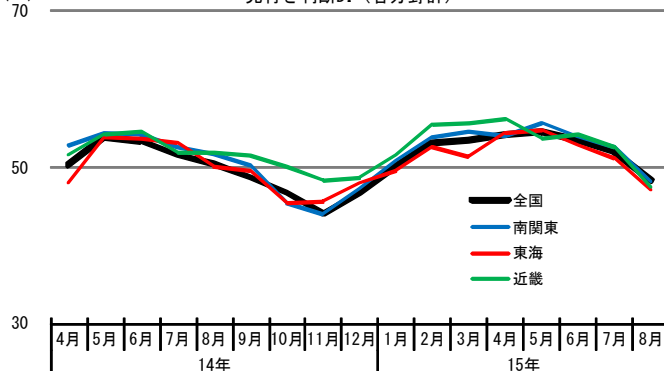
■企業動向関連＋雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	50.8	51.9	52.4	49.7
	5月	51.0	52.1	52.9	51.1
	6月	52.7	51.7	54.2	50.0
	7月	55.1	54.7	56.6	53.5
	8月	50.6	51.0	53.3	48.3
	9月	48.9	50.9	48.7	47.9
	10月	47.3	48.0	48.7	49.2
	11月	45.5	45.0	44.6	49.4
	12月	47.4	44.9	51.3	46.5
15年	1月	49.1	50.0	52.6	48.8
	2月	53.5	51.2	56.7	55.2
	3月	54.7	55.0	56.7	55.5
	4月	54.4	53.5	54.6	54.7
	5月	52.7	51.9	53.2	52.6
	6月	52.3	53.9	53.4	52.8
	7月	53.4	51.7	53.6	54.9
	8月	50.4	50.5	49.3	53.3

（２）景気の先行き判断（２～３ヶ月先の見通し、方向性）

- ２～３ヶ月先の景気の先行きに対する判断D I（各分野計）は、８月は前月差４.０ポイント低下の４７.１と３ヶ月連続で低下した。低下幅は大きく、横ばいを示す５０を７ヶ月ぶりに下回った。南関東、近畿とはほぼ同水準、全国をやや下回っている。

(D1) 先行き判断DI（各分野計）

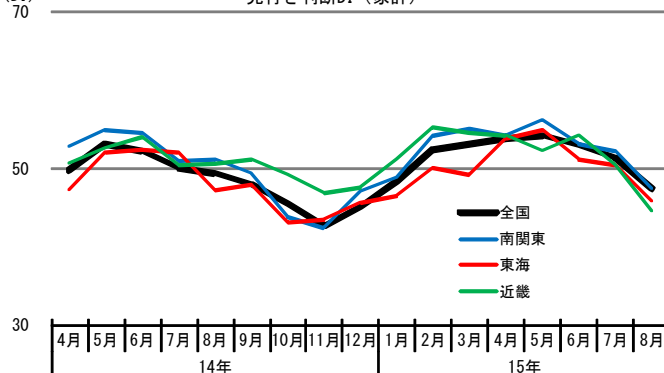


■各分野計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	50.3	52.8	47.9	51.4
	5月	53.8	54.3	53.8	54.1
	6月	53.3	54.2	53.6	54.5
	7月	51.5	52.6	53.1	51.9
	8月	50.4	51.8	50.1	51.9
	9月	48.7	50.2	49.4	51.5
	10月	46.6	45.5	45.5	50.0
	11月	44.0	43.9	45.6	48.2
	12月	46.7	47.3	48.0	48.6
15年	1月	50.0	50.8	49.6	51.6
	2月	53.2	53.8	52.6	55.5
	3月	53.4	54.6	51.3	55.5
	4月	54.2	54.0	54.3	56.1
	5月	54.5	55.6	54.7	53.7
	6月	53.5	53.8	52.7	54.2
	7月	51.9	52.6	51.1	52.6
	8月	48.2	48.0	47.1	47.3

- 家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、８月は４.７ポイント低下の４５.８と３ヶ月連続で低下した。低下幅は大きく、横ばいを示す５０を５ヶ月ぶりに下回った。近畿に比べやや高めの水準であるが、南関東や全国と比べるとやや低い水準となっている。

(D1) 先行き判断DI（家計）

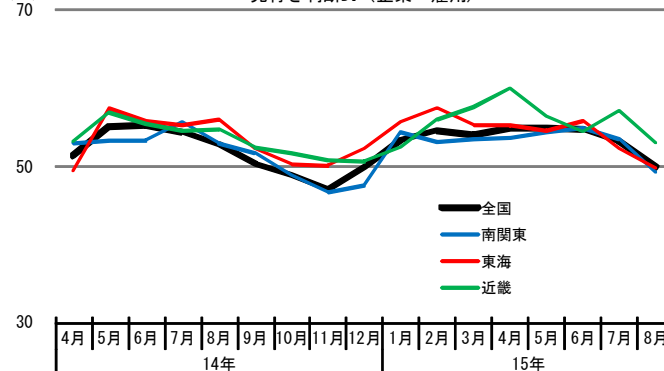


■家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	49.8	52.8	47.2	50.6
	5月	53.1	54.9	52.0	52.6
	6月	52.3	54.6	52.5	54.0
	7月	50.0	50.9	52.1	50.4
	8月	49.3	51.2	47.2	50.6
	9月	48.0	49.4	48.0	51.1
	10月	45.4	43.8	43.0	49.1
	11月	42.5	42.3	43.5	46.8
	12月	45.0	47.1	45.7	47.5
15年	1月	48.4	48.8	46.5	51.2
	2月	52.4	54.1	50.0	55.2
	3月	53.1	55.2	49.1	54.5
	4月	53.9	54.2	53.8	54.1
	5月	54.3	56.3	54.8	52.3
	6月	52.9	53.2	51.2	54.1
	7月	51.3	52.2	50.5	50.4
	8月	47.4	47.4	45.8	44.5

- 企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、８月は前月差２.６ポイント低下の４９.７と、２ヶ月連続で低下し、横ばいを示す５０を１６ヶ月ぶりに下回った。近畿に比べると低く、南関東、全国とはほぼ同水準となっている。

(D1) 先行き判断DI（企業・雇用）



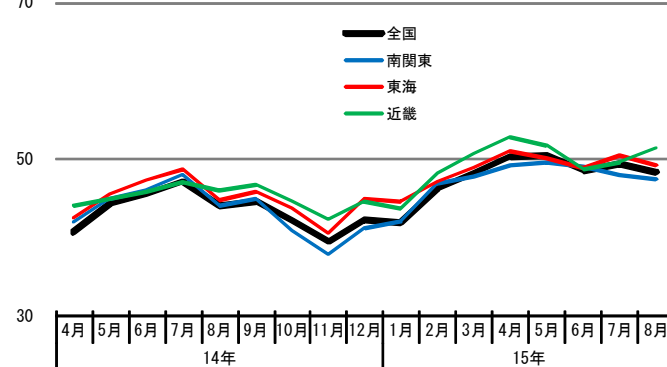
■企業動向関連＋雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	51.3	52.9	49.3	53.1
	5月	55.0	53.3	57.4	56.9
	6月	55.3	53.3	55.8	55.4
	7月	54.5	55.7	55.3	54.6
	8月	52.8	52.9	56.0	54.7
	9月	50.2	51.7	52.3	52.4
	10月	48.9	48.8	50.3	51.7
	11月	47.1	46.7	50.0	50.9
	12月	49.9	47.5	52.3	50.6
15年	1月	53.4	54.4	55.6	52.4
	2月	54.6	53.2	57.4	56.0
	3月	54.1	53.5	55.3	57.6
	4月	55.0	53.7	55.3	59.9
	5月	54.9	54.4	54.5	56.3
	6月	54.7	54.9	55.7	54.3
	7月	53.1	53.5	52.3	57.0
	8月	49.9	49.3	49.7	53.0

（３）景気の現状判断（水準）

- 現在の景気の水準自体に対する判断D I（各分野計）は、8月は前月差1.4ポイント低下の49.2と、2ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を2ヶ月ぶりに下回った。近畿に比べて低い、南関東に比べやや高く、全国とほぼ同水準となっている。

現状判断[水準]（各分野計）

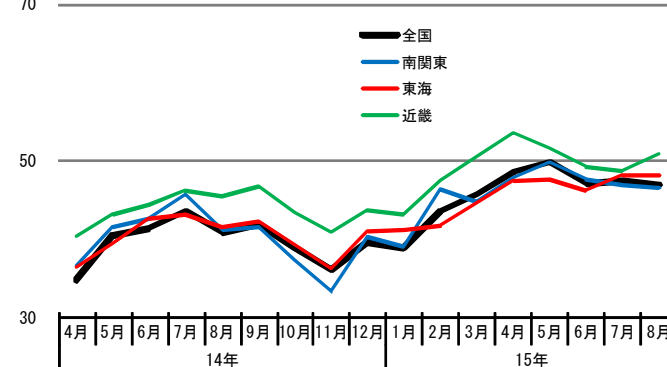


■各分野計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	40.6	42.0	42.5	44.0
	5月	44.3	45.0	45.5	45.0
	6月	45.5	46.1	47.3	45.8
	7月	47.0	48.0	48.7	47.0
	8月	44.0	44.0	44.8	46.0
	9月	44.6	45.0	45.8	46.7
	10月	42.1	40.8	43.7	44.6
	11月	39.3	37.8	40.5	42.3
	12月	42.3	41.3	45.0	44.7
15年	1月	41.9	42.0	44.6	43.7
	2月	46.2	46.9	47.2	48.2
	3月	48.2	47.9	49.0	50.8
	4月	50.3	49.3	51.0	52.8
	5月	50.6	49.6	50.1	51.8
	6月	48.6	49.2	48.9	48.8
	7月	49.5	47.9	50.6	49.7
	8月	48.4	47.5	49.2	51.5

- 家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断D Iは、8月は前月差0.1ポイント上昇の48.2と、2ヶ月連続で上昇したが、中立を示す50を下回っている。近畿に比べると低い水準ではあるが、南関東、全国の水準をやや上回っている。

現状判断[水準]（家計）

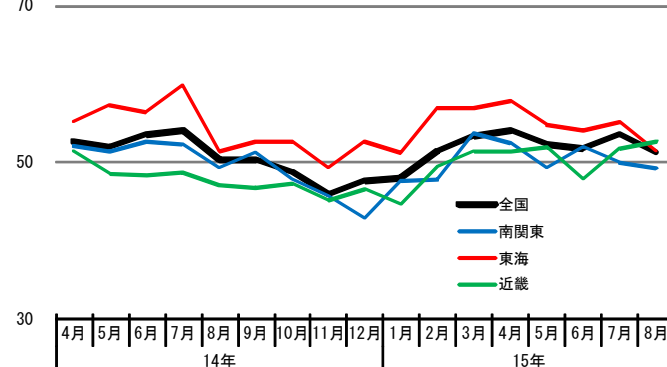


■家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	34.7	36.5	36.3	40.3
	5月	40.5	41.5	39.5	43.1
	6月	41.4	42.6	42.6	44.4
	7月	43.6	45.6	43.2	46.2
	8月	40.9	41.2	41.5	45.5
	9月	41.8	41.6	42.3	46.8
	10月	38.9	37.2	39.2	43.3
	11月	36.1	33.3	36.2	40.8
	12月	39.6	40.4	41.0	43.7
15年	1月	39.0	39.1	41.2	43.2
	2月	43.6	46.4	41.8	47.6
	3月	45.6	44.7	44.7	50.4
	4月	48.5	47.8	47.5	53.6
	5月	49.8	49.8	47.7	51.7
	6月	47.0	47.7	46.3	49.3
	7月	47.5	46.9	48.1	48.7
	8月	47.0	46.6	48.2	50.9

- 企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断D Iは、8月は前月差4.0ポイント低下の51.3と、2ヶ月ぶりに低下したが、中立を示す50を9ヶ月連続で上回っている。南関東より高く、近畿よりやや低めで、全国とほぼ同水準となっている。

現状判断[水準]（企業・雇用）



■企業動向関連＋雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	4月	52.7	52.1	55.1	51.4
	5月	51.9	51.4	57.4	48.6
	6月	53.6	52.6	56.5	48.3
	7月	54.1	52.4	59.9	48.6
	8月	50.3	49.3	51.3	47.1
	9月	50.3	51.2	52.6	46.7
	10月	48.8	47.8	52.6	47.2
	11月	45.9	45.8	49.3	45.1
	12月	47.7	42.9	52.6	46.5
15年	1月	47.9	47.6	51.3	44.6
	2月	51.5	47.8	57.1	49.4
	3月	53.3	53.8	57.0	51.5
	4月	54.0	52.5	57.9	51.5
	5月	52.3	49.3	54.8	52.0
	6月	51.7	52.0	54.1	47.8
	7月	53.5	50.0	55.3	51.7
	8月	51.2	49.3	51.3	52.7

2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

（1）景気の現状判断

- 8月の東海地区の景気の現状判断D I（49.2）は2ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を7ヶ月ぶりに下回った。部門別にみると、家計動向関連の現状判断D I（49.2）は2ヶ月ぶりに低下し、再び50を下回った。また、企業動向・雇用関連の現状判断D I（49.3）も3ヶ月ぶりに低下した。低下幅は大きく、横ばいを示す50を9カ月ぶりに下回った。
- 現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。8月調査では、7月調査で増加していた「やや良くなっている」と「変わらない」が減少する一方で、「やや悪くなっている」が大きく増加し、「悪くなっている」という回答もわずかに増加している。

現状判断 (回答者数)	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	合計
5月調査	6	64	117	35	6	228
6月調査	5	48	121	39	8	221
7月調査	4	51	129	35	5	224
8月調査	4	45	123	46	7	225

- 8月調査で大きく増加した「やや悪くなっている」という回答を寄せたウォッチャーのコメントで出てきたのは、中国経済の減速や株価の下落についてのコメントであった。家計動向関連では、以下のようなコメントがある。

・客の購買動向は、中国の景気減速や株価下落等の動きに、非常に敏感であると感じている。8月の販売量は、気候の影響もあり前年同月比で2割減となっている。（一般小売店[自然食品]経営者）

・ショッピングセンターに行っても、チラシの入った日とその週末は来客数があるが、夏休みなのに平日には客は入らない。コンビニも競争がますます激しくなり、地域一番店と他の店との売上格差は更に開き、大手チェーン同士でも、売れる店と売れない店の差が大きくなってきている。ここにきて、中国経済の低迷が世界的に大きく影響し、消費者の節約志向が強まり、慎重になっている。そのため、消費も輸出も伸びず、景気はやや悪くなっている。（スーパー経営者）

- 中国経済や株価への言及は8月調査の調査期間中の大きな変動に影響された可能性があるが、そうした話題性のある出来事を離れても景気の弱い動きが出てきているようだ。たとえば、前出のコメントにもあるように、消費者の節約志向の強まりを指摘するコメントがいくつか出ている。

・客は買物の際に無駄な物は買わない。くじや一時的な流行品は買わず、本当に必要な物しか購入しない。（コンビニ店長）

・購入点数の減少に伴い、購入単価が落ちてきている。不要不急な物に対しての消費がシビアになってきている。（スーパー営業企画）

・客の指向が付加価値の高い商品から必需品に絞った購入へと変わってきている。当社でもそ

の影響を受けている。（衣料品専門店販売企画担当）

- 節約志向の背景にあるものは、実質所得の伸び悩みだろう。所得の増加を実感できる人が多くない中で、価格の上昇はしっかり実感できるということがウォッチャーのコメントからうかがえる。

- ・ファッション商品の動きが徐々に活発になる時期にもかかわらず、消費の主役である婦人衣料では、春からの芳しくない状況が続いている。普通の主婦層には、富裕層や一部の好調な会社業績に伴って給与増加を実感できる消費者とは異なり、生活防衛の姿勢に変化がない。（百貨店販売担当）
- ・株価が乱高下する経済状況であるが、客との会話では、あれは別の世界の話ということで、身の回りで景気が良くなっている実感はなく、日用品の価格上昇しか実感しないと耳にする。新型車種が発売され、客がもう少し車に関心を持ってくれるかと思ったが、期待ほどではなく、景気の実態はかなり厳しいようである。（乗用車販売店従業員）

- 一方、「やや良くなっている」と回答したウォッチャーのコメントでは、天候要因のプラス効果や季節要因を指摘するものが少なくなかった。

- ・夏休み期間中は全体的に天候に恵まれ、消費の一層の拡大につながっている。（百貨店経理担当）
- ・今月は非常に暑かったが、下旬からは涼しくなり秋物衣料品の動きも顕著に出てきている。インバウンド関連も引き続き好調に推移しており、売上の底上げ要因となっている。（百貨店経営企画担当）
- ・気温の影響もあり、3か月前に比べて冷蔵庫やエアコンが堅調に推移し、8月は良い結果となっている。（家電量販店店員）

- プレミアム付商品券についてのコメントは多いが、プラス効果を挙げる声がある一方で、恩恵が回ってこないとのコメントもあり、消費全体を押し上げる効果は期待できないようだ。

- ・プレミアム付商品券により夏場の旅行申込が激増している。前年同月比で前月は倍増、今月も30%増加である。1泊の宿泊予約から欧州旅行まで旅行単価は1万～40万円と幅広い商品で増加しており、景気の好調さが顕著に表れている。（旅行代理店従業員）
- ・プレミアム付商品券の効果で客単価が上がり、売上は前年並みをクリアしたが、来客数はまだ前年割れの状態である。（コンビニエリア担当）
- ・プレミアム付商品券が発売されたが、ほとんど店頭では使われていない。購買意欲の向上にはつながっていない。（百貨店売場主任）

- インバウンド消費の好調を指摘するコメントが続いているが、他があまり良くない中でインバウンドの好調が目立つということも言えそうだ。

- ・全社的には前年比、予算共にクリアしているが、内訳をみるとインバウンドや国内でも遠方からの宿泊客が好調で、大きく助けられている。近郊や地元客の利用が芳しくなく、特に食堂は前年をかなり割り込んでおり、危機感を感じる。（観光型ホテル販売担当）
- ・インバウンドの客は増えているが、日本人客が減っているので、変わらない。（テーマパーク職員）

- 「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。回答合計数が月によってぶれるので単純な比較はできないが、8月調査は7月調査から大きな変化はなかったようだ。新車投入効果については、前出の乗用車販売店従業員のコメントのように厳しい見方もある一方で、少し手ごたえを感じているところもあるなどまちまちとなっている。

- ・来客数が前月よりも増えている。家族連れも多くなってきて、少しずつではあるが、客の動きに変化がみられる。（乗用車販売店経営者）
- ・新型車発売の効果もあって新車の販売台数は増えており、この2～3か月でみれば、ようやく前年並みの販売台数で推移している。（乗用車販売店従業員）

現状判断	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答合計
3月調査	0	2	7	3	0	12
4月調査	1	1	5	3	1	11
5月調査	1	0	4	3	1	9
6月調査	0	1	4	6	0	11
7月調査	0	0	8	4	0	12
8月調査	0	1	5	3	0	9

- 家計動向関連の状況をまとめると以下のコメントのような状況であり、個人消費の回復感は広がっていない。

- ・客単価には大きな変化はない。1客当たり買上点数は若干下がっているが、1品当たり単価が上がって客単価を維持する状態が続いている。商品の値上げ等、非常に不安定な要素もあり、お盆明け以降は、少し苦戦している。（スーパー店長）
- ・客層が二極化している。高齢で余裕のある層とそれ以外の層では消費が異なる。ただし、いずれも節約志向が強くなっている。一方でインバウンド関連は堅調であり、景気の状態としては変わらない。（旅行代理店経営者）

- 企業動向関連でも、家計動向関連と同様に中国経済の減速や株価の下落を懸念するコメントが出ている。特に中国経済については実際のビジネスの状況からも減速が実感できるようであり、それが企業動向・雇用関連の現状判断 DI の大幅低下の一因になっていると推測できる。

- ・中国の景気減退による世界的な株安と円高により、個人の資産効果も薄れ、一部には保有金融資産に含み損が出始めており、消費に慎重になりつつある。（金融業企画担当）
 - ・中国をマーケットとする製造業の荷物量が大幅に落ち込んでいる。特に、建設機械関連は停止に近い状態である。（輸送業経営者）
- 設備投資については増えてきているというコメントがある一方で、スマートフォン向け設備の受注の減速を指摘する声があり注意が必要だ。
- ・客先では新製品の生産がもうじき始まるため、それに伴う設備投資が増えてきている。（輸送用機械器具製造業品質管理担当）
 - ・スマートフォン向け設備の受注には、前年ほどの勢いがなく、自動車や一般産業用設備の受注では、その落ち込みを補うことができない。（一般機械器具製造業営業担当）

（２）景気の先行き判断

- 8月の東海地区の景気の先行き判断D I（47.1）は3ヶ月連続で低下した。低下幅は大きく、横ばいを示す50を7ヶ月ぶりに下回った。家計動向関連の先行き判断D I（45.8）も3ヶ月連続で低下した。低下幅は大きく、5ヶ月ぶりに横ばいを示す50を下回った。また、企業動向・雇用関連の先行き判断D I（49.7）は2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を16ヶ月ぶりに下回った。
- 先行き判断D Iが家計動向関連を中心に大きく低下した要因としては、中国経済の先行きや株安の影響を懸念する見方が強まっていることが挙げられる。家計動向関連の現状への影響はまだ限定的だが、先行きへの不安を大きく高めているようだ。
- ・中国経済の減速に伴う株価下落や先行きへの不安が影響し、消費が鈍化すると思われる。（スーパー支店長）
 - ・株価上昇の時に好景気なのは一部の人でも、下降すると社会全体に影響して雰囲気が悪くなり、不況モードに入る。（その他飲食[仕出し]経営者）
- 先行きのプラス材料が見つけにくい中、大型連休となる秋のレジャー需要に対する期待が続いている。
- ・9月の大型連休の旅行申込が好調である。国内旅行は前年比で3倍、海外旅行も2倍となっている。最大5連休ということもあり、北海道や沖縄といった2～3泊の旅行先に人気が集中している。海外でも韓国、中国、タイは政情不安により減少しているが、台湾、シンガポール、グアム、ハワイは倍増している。10～11月にも3連休があるため、しばらくは好調が続くと見込まれる。（旅行代理店従業員）

・10～11 月は行楽シーズンで気候も良く、客足の伸びを見込む。（美容室経営者）

- プレミアム付商品券、インバウンド消費、伊勢志摩サミットに対する期待感は続いているが、懸念材料を払拭するには力不足のようだ。逆に、中国経済の変調が富裕層やインバウンド消費にマイナスに作用する懸念も出ている。

- ・伊勢志摩サミットに向けて、景気がだんだん良くなる。（一般小売店[土産]経営者）
- ・インバウンドは好調だが、国内消費は変わらない。相変わらず、客の購買意欲は低く、このまま秋以降も変化がないと見込まれる。（百貨店売場主任）
- ・お盆も終わり、少しずつ良くなると期待する。プレミアム付商品券は、完売した市町村がほとんどで、商品券がすべて使われれば景気も上向く。（その他住宅[不動産賃貸及び売買]経営者）
- ・プレミアム付商品券も既に使い切った感があり、景気を刺激する要因が見つからない。中国経済の動きも、我が国の景気に微妙な影を落とす可能性がある。（旅行代理店経営者）
- ・中間層の消費を回復させる劇的な要因に乏しいなかで、中国経済の減速により、現在は好調な富裕層やインバウンド消費の先行きにも不透明感がある。（百貨店販売担当）

- 乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、4 月調査で夏のボーナス増加への期待もあり改善した後、5 月調査以降は期待がやや剥落した状況が続いている。8 月調査でも大きな変化はないが、中国経済の減速懸念や株価の下落が続く中、やや厳しめの見方が増えている可能性がある。ウォッチャーのコメントを見ると、現状判断と同様に、明るい動きを指摘する声もある一方で慎重な見方が支配的だ。

先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	回答合計
3 月調査	0	1	5	6	1	13
4 月調査	0	6	5	2	0	13
5 月調査	0	3	8	1	0	12
6 月調査	0	3	8	1	0	12
7 月調査	0	2	8	2	0	12
8 月調査	0	2	7	3	1	13

- ・新車効果もあり、大幅ではないが販売台数も前年並みに回復してきており、ここ2～3か月は、販売台数が増加する。（乗用車販売店従業員）
- ・ここ数か月の変化のなさを考えると、今後もこのまま推移していくと思われる。（乗用車販売店経営者）
- ・10 月にモーターショーが開催されるため、需要喚起や雰囲気の上昇を期待はするが、それほど大きな効果も見込みにくい。（乗用車販売店従業員）
- ・新車販売は、新型車種の投入にもかかわらず受注総数が前年実績より減少している。客が更に次の新型車種を気にしている様子もうかがえるが、実際の登録台数に結び付く割合は低いと思われるので、厳しい状況が続くと考え。（乗用車販売店従業員）

- 秋の大型連休の効果を除けば、家計動向関連の先行きのプラス材料が見つけにくい中、中国経済の減速や株価の下落といった混乱が落ち着くことがまず重要というコメントもあった。
 - ・前月後半から今月前半にかけては、気温も高く夏物衣料や雑貨等を中心に活発な動きを見せたが、お盆休みを境に失速している。中国経済の減速に端を発した株価の下落や円高等で、消費者の購買意欲はやや減退気味である。これらの経済的な混乱が収束するまでは、景気が上向きになるとは考えられない。（百貨店企画担当）
 - ・プレミアム付商品券等のテコ入れ策による、一時的な消費喚起はあるが、中国経済等の外部要因にも対応できる実効性のある地域振興策が求められる。現在の、株価や円相場に依存した企業業績からのトリクルダウンに頼る状況では、家計を預かる主婦の心理的な変化や購買意欲の向上は望めない。（百貨店販売担当）
- 企業動向関連では、先行き良くなっていく材料が見つけにくい中、中国をはじめとする世界経済の減速を背景に、輸出や設備投資の先行きを懸念するコメントもあり、注意が必要だ。
 - ・当社製品が輸出商品に使われるためか、ここにきて客からの発注が激減している。9～10月の内示では、今月より2～3割少ない発注量となっている。（電気機械器具製造業経営者）
 - ・株価低迷等、世界経済の先行きへの不安で、取引先企業は設備投資に慎重になっている。（金融業法人営業担当）

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方向性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
（1） 景気の現状に対する判断（方向性）
（2） 景気の先行きに対する判断（方向性）
（3） 景気の現状に対する判断（水準）
（1）（2）については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

（出所）内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。